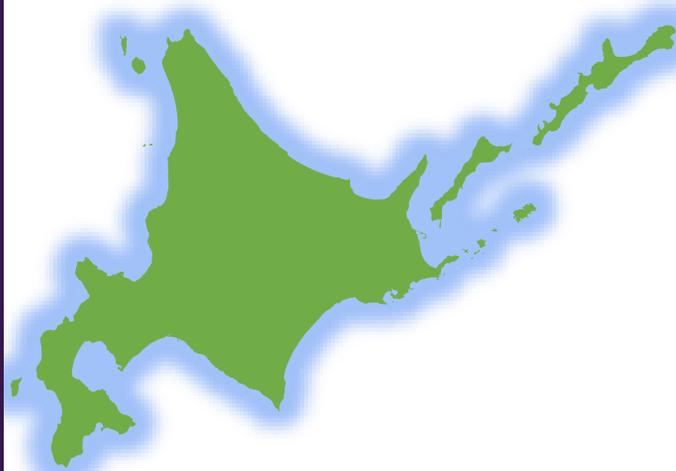


北海道 公衆衛生医師 2024

北海道の未来をともにつくる。



北海道
北海道保健所長会

北海道は、全国を上回る速さで人口減少、少子高齢化が進行しているほか、生活習慣病の増加による疾病構造の変化や世帯の小規模化、独居高齢者の増加による世帯構造の変化など保健医療福祉を取り巻く環境が大きく変化してきていることに加え、価値観やライフスタイルの変化によってニーズが多様化しています。

こうした中、本道の公衆衛生医師は、道民の健康と暮らしを守るため、保健所での感染症や食中毒の対策に加え、精神や難病、医事に関する仕事、本庁での救急医療や医師確保、喫煙対策やがん対策など、医学の知識を活かして保健師や薬剤師など多くの職種の間とともに、保健医療福祉施策の充実に取り組むとてもやりがいのある仕事です。

また、北海道は、雄大な自然やおいしい食、北海道固有の歴史・文化など、多彩な魅力に満ちており、勤務するそれぞれの地域で充実した生活を送ることができると思います。

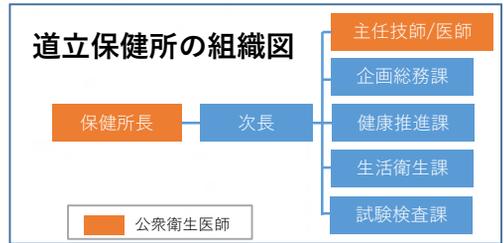
是非、私たちと一緒に、誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる北海道を創り上げていきましょう。



道立保健所の所在地 (26か所)

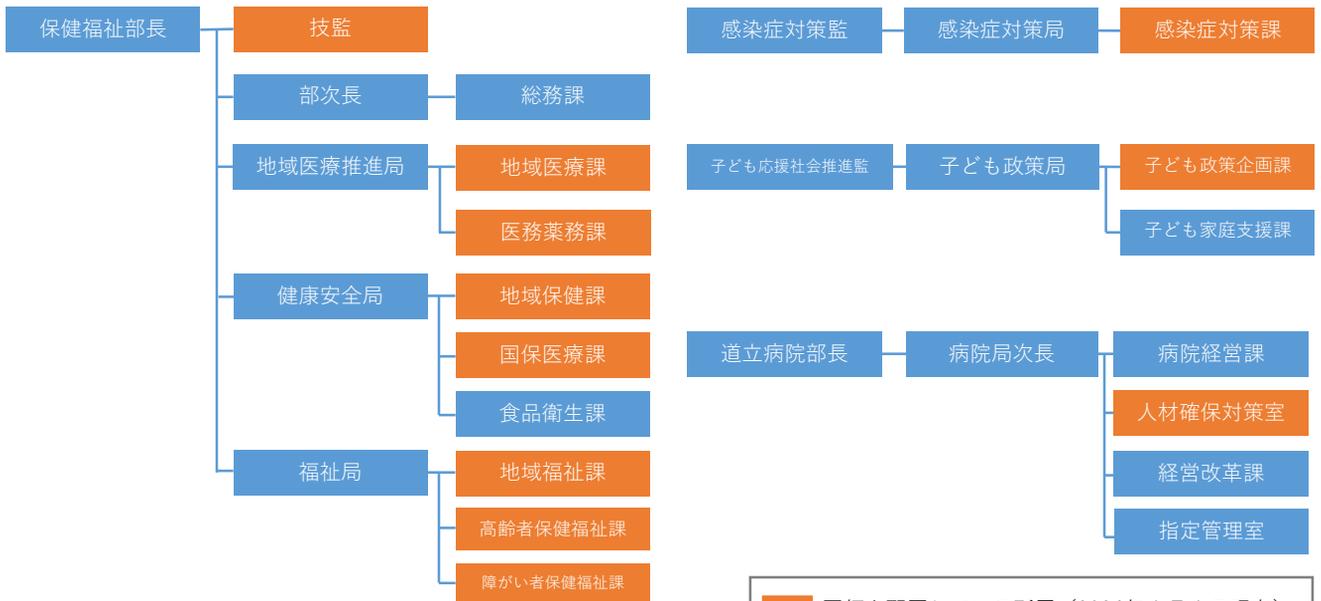


道立保健所の組織図



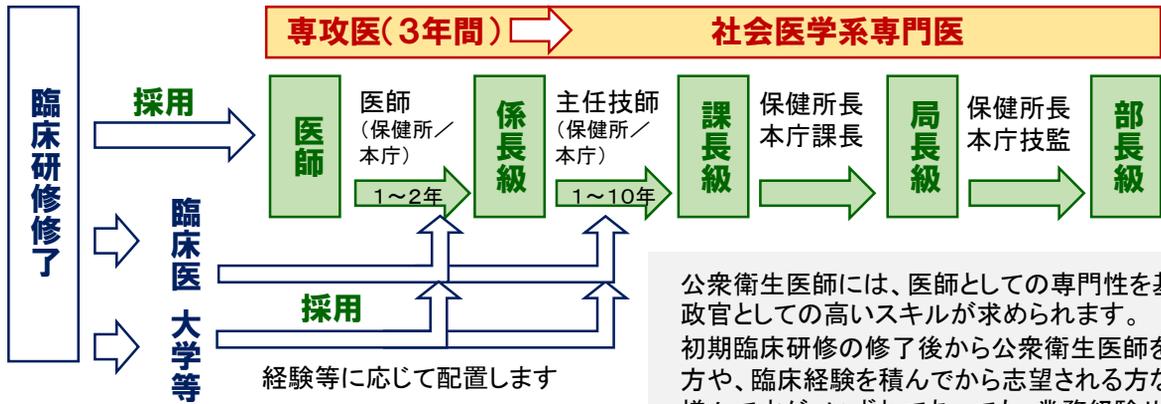
本庁（北海道庁）組織図

(保健福祉部 / 道立病院局)



医師を配置している所属 (2024年1月1日現在)

北海道公衆衛生医師のキャリアパス

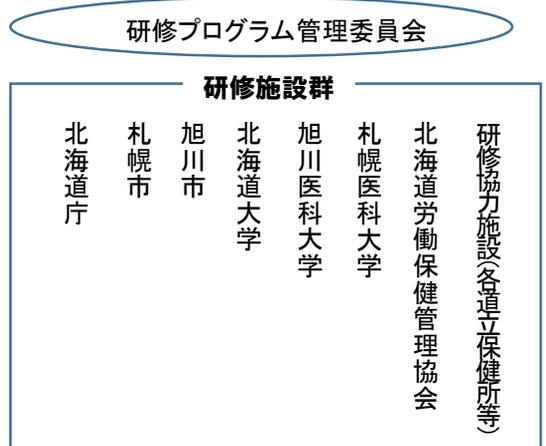


公衆衛生医師には、医師としての専門性を基礎にした行政官としての高いスキルが求められます。初期臨床研修の修了後から公衆衛生医師を志望される方や、臨床経験を積んでから志望される方などルートは様々ですが、いずれであっても、業務経験や研修などを通じて、必要なスキルを身につけることができます。

社会医学系専門医の取得について

社会医学系専門医制度は、(一社)社会医学系専門医協会が運営する専門医認定制度です。北海道では2018年度より、行政や大学など、全道の研修施設群が連携し、全道統一のプログラムにより一体的な研修を実施しています。北海道に採用された公衆衛生医は、このプログラムにより、指導医である保健所長等のもとで専攻医となり、3年間の専門研修を受け、必要な能力を身につけ試験に合格することで専門医の資格が得られます。専攻医は、所属の業務だけでなく、各研修施設においても学ぶことができ、幅広い領域について高い専門性をもった専門医となることができます。

北海道社会医学系専門医研修プログラム



充実した研修体系

公衆衛生医師として、必要な知識や技術を身につけられるよう、保健所長等の指導のもとで業務経験を通じた学び(OJT)の他、外部機関で行われる専門的な研修を受けられます。

保健福祉行政管理分野～分割前期 (国立保健医療科学院)
 災害時健康危機管理支援チーム養成研修 (日本公衆衛生協会)
 エイズ対策研修 (国立保健医療科学院)
 結核予防会結核研究所医師コース (結核予防会)
 日本公衆衛生学会総会 など

— 医師としての専門性と行政スキルの両方を生かします —

医師としての専門性

医学的知識・科学的判断能力・
 真理探究力

行政官としての専門性

施策に関する知識・調整力・
 構想力・公平・公正性など

基礎的な素養

高い志、広い視野、豊かな人間性、
 コミュニケーション能力

北海道公衆衛生医師からの一言メッセージ



保健福祉部
技監 人見 嘉哲

前職は、本州の某大学医学部で公衆衛生学を教えていました。北海道に来たポイントは、海山川そして広大な面積の中に様々な生活があること。公衆衛生的にこれほど多様性に富んだ面白い自治体はありません。転勤で全く異なる土地で地域の方々と働けるのも魅力です。もう1つは、公衆衛生医師の数が多く、集まると20人を超えるのでとても賑やか。行政初心者にとって相談先に困りませんし、とても親切に教えてくださいます。

公衆衛生医師は、様々な領域に目を向け社会情勢等を俯瞰して、道民に今必要なこと、将来必要なことを考え、多様な価値観をもつ関係者等の意見を調整しながら、道の施策形成に深く関わります。公衆衛生医師の守備範囲はたいへん広く、行政で様々な役割を果たしている先輩のメッセージからその魅力を感じていただければと思います。

地域医療にもっと深く関わりたい、患者の背後にいる方など道全体の健康を高めたい、そんな方々には、これまでの学びや経験を生かしながら、公衆衛生の専門的な視点から、新たな可能性が広がります。是非ご一緒しませんか？



北海道保健所長会 会長
北海道江別保健所長
山本 長史

公衆衛生医の業務は、その時代、その地域で様々に変化します。特に2020年から世界中で大流行した新型コロナウイルス感染症対策では、公衆衛生医は保健所の組織体制を有事対応に再編成し、検査、相談、搬送、医療、療養などについて、地域の医療機関や市町村などの関係機関との調整を行いつつ、対策を進めてきました。

また、2024年の元旦に発生した令和6年能登半島地震では、石川県の支援のために全国から応援職員が派遣されているところですが、北海道はDHEATとして発災初期から石川県庁へ入り、災害時のマネジメント体制の構築等の支援を行いました。

このような活動が即座に出来るのも、平時の活動の積み重ねがあるからです。北海道は広く、同じ道内であっても様々な“お土地柄”があり、地域特性も異なるため、行く先々でいろいろなことを経験し、学ぶことができます。

このことは、自らの能力向上にもつながりますし、ダイナミックな仕事が出来ると思っています。そんな北海道で、是非一緒に仕事をしませんか。皆様からのご連絡をお待ちしています。

— この仕事、あなたに向いているかも —

北海道のために働きたい！

臨床医はひとり一人の患者を、北海道の公衆衛生医は520万人の生(いのち)を衛(まも)ります。

みんなで協力して仕事がしたい！

自分だけではできないことも、多くの関係者と協力・連携して取り組み、実現をめざします。

ねばり強く継続的に取り組みたい！

利害関係や過去の経緯で複雑な課題も、丁寧にねばり強く取り組むことで解決に近づきます。

ここがおススメ！ 北海道の公衆衛生医師

● 豊富な教育の機会

臨床や大学、行政など様々な経験を持つ公衆衛生医師が30人近くいるので、それぞれの得意分野についてアドバイスをもらうことができます。

● 様々な魅力的な地域での勤務

北海道の魅力は自然が豊かで特色のある地域があることです。様々な地域で勤務しながらその土地ならではの食や温泉などを楽しむことができます。

● 保健所と本庁で多様な経験

多くの医師が保健所勤務と本庁勤務の両方を経験しますので、様々な視点から公衆衛生行政に関わることができます。

📍 詳しくは座談会 (P6～) をご覧ください！



教えて!! 山本 所長



公衆衛生医師ってどんな仕事?
新米の佐野と一緒に山本所長の
江別保健所での1日を見ていきましょう!



道立保健所職員からの一言メッセージ

薬剤師

道立保健所の薬剤師は、薬事・医事・食品等、幅広い分野で道民の皆様の生活を支えています。保健所には、保健師や獣医師、栄養士など様々な専門職も勤務しており、保健所長には、それぞれの職種が専門性を十分に発揮できるようチームリーダーとして、目指すべき道筋を的確に指示していただき、公衆衛生医としての幅広い知識から多くの助言もいただいています。

日本の“てっぺん”保健所である稚内保健所では、全幅の信頼を寄せる所長のもと、職員間の一体感も生まれ、困難な業務にもチーム一丸となって立ち向かっています。広大で地域それぞれに多くの魅力をもつ北海道の保健所リーダーとなっただけでなく、心よりお待ちしております。

北海道稚内保健所企画総務課長 堀越 崇行



保健師

道立保健所の保健師は、看護職として地域住民が生き生きと暮らせるまちづくりを目指し、市町村や関係機関と連携して、地域の健康課題に応じた様々な保健活動を行っています。

医師である保健所長からの、行政的かつ公衆衛生の視点で裏打ちされた判断や一声に支えられ、時には一緒に悩みながら、地域の様々な健康課題に対応しています。

北海道は広大なので保健所の数も多く、それだけ一緒に働く職員も多いので異動で知り合いがどんどん増える心強い職場です。私たち保健師と一緒に働いてくださる公衆衛生医師として、仲間入りしてみませんか?お待ちしております!

北海道倶知安保健所健康推進課長 松野 由紀子



獣医師

保健所の獣医師の主な仕事は、誰もが生活の中で利用する飲食店や理美容所、公衆浴場等の施設の許認可や衛生に関することです。その中の一つに食中毒対策がありますが、食中毒の疑いが発生した際には、被害拡大防止のため迅速な対応が必要となります。保健所長と協議をしながら患者や施設等の調査を進めていくのですが、医師の視点からのアドバイスは度々、私達の調査で足りない部分に気づかせてくれます。調査の結果、最終的には保健所長が食中毒かどうかを総合的に判断し、再発防止の取り組みを進めていきますが、保健所長のその場に応じた的確な判断がとても頼りになっています。

北海道帯広保健所生活衛生課長 稲津 満実子





久保 憲昭
深川保健所長
(2021年入庁)

Eri
倶知安保健所長
(2017年入庁)

森 昭久
帯広保健所長
(1986年入庁)

佐野 友宇子
江別保健所主任技師
(2023年入庁)

大原 幸
地域医療課医療参事
(2011年入庁)

道庁に入るまでのキャリア、
北海道に入ったきっかけを教えてください

久保：札幌医大を卒業後、小児科医として、夜間や吹雪の中でも病院から呼ばれる生活を続けているうちに、別の仕事をとを考えて保健所を選びました。

Eri：北大医学部を卒業後、神経内科医として勤務、神経難病患者の地域ケアに関心を持つ中で公衆衛生学講座に出入りするようになりました。そこで札幌市の行政医師に誘われて公衆衛生医師としての勤務を開始しました。人事交流で北海道での勤務を経験して、16年間勤務した札幌市から北海道庁に移籍しました。

森：社会や歴史が好きで、若い時に聞いた「この世は、人の海、その海の流れてくっついたり離れたたり、上下しながら、時間がたっていく」という話が印象に残っていました。大学で社会全体に関わる仕事である公衆衛生に興味を湧き、学生時代から公衆衛生学教室に出入りしていて、旭川医大卒業後、そのまま道庁に入りました。

佐野：自治医科大学を卒業後、産婦人科医として勤務している際に、保健所勤務を勧められました。当初は保健所勤務に抵抗を感じていましたが、産婦人科医時代に興味があった性教育などをきっかけに公衆衛生医師の仕事に興味を持って取り組めるようになってきました。

大原：北大医学部卒業後、神経内科医として勤務、難病患者などへの関わりを通じてシステムへのアプローチの必要性を感じて公衆衛生に興味を持ち、北海道に入りました。

職場の雰囲気、
入職後のサポート体制はどうか？

久保：小児科医は患者さんや保護者とコミュニケーションを取らないと行かないので、行政でもそれが活かしていると思います。クールビズやウォームビズのおかげでノーネクタイで働けるのも楽ですね。保健所長になる前に、国立保健医療科学院の研修に参加しましたが、講師が素晴らしくて、受講者ともつながりができて、人生の中でも一二を争う面白い研修でした。

大原：私がその研修に参加したときには、3ヶ月くらい20名の医師が集まって研修を受けていました。年齢層もバックグラウンドも幅広い受講生でしたが、今でも学会などで会うと同期として昔に戻るような感じになります。入庁してからは当時の保健所長や職員からのレクチャーや様々な会議に出席して医師としての立ち振る舞いを学びました。入る前はお堅い役所をイメージしていましたが、保健師や獣医師など様々な職種がいて雰囲気としては診療所と変わらないような印象でした。

佐野：私も保健所はお役所だと思っていましたが、職員が優しくコミュニケーションを取ってくれて、仕事の面でも丁寧に教えてくれるので保健所の業務に楽しくすんなりと入れています。プライベートでも一緒に遊ぶ職員ができて楽しく過ごしています。

Eri：北海道に入る前から道の医師を多く知っていたので、保健所で医師1名でも全道の先生方に相談できるのが良いところだと感じています。医師以外の職種にも先輩が沢山いるので、仕事も地域の生活面もアドバイスをもらえます。保健所長として地域の保健医療に関する全体に関わることができるのも魅力ですね。

森：若い頃に道外の研修に行く機会が多く、全国の保健所長や厚労省の医系技官など、全国に知り合いができるのも良い経験でした。保健所は以前と比べると行政機関らしくなっていますが、様々な職種が集まる現業部門なので、独特の雰囲気や色々なことをやって多くのアイデアが出て面白いと思います。

司会進行

石井 安彦
釧路保健所長

村松 司
地域医療課医療参事



久保： コロナの検査で児童福祉施設を訪問したことがあります。小児の対応は割と敬遠されがちですが、自分は小児科医だったのでウェルカムでした。子どもの場合、お母さんが何か変だと言っていたら大抵何かあり、医者は患者さんから教えてもらうことばかりだと思っていました。行政でもいろいろな人からたくさんのお話を教えてもらうのでやっぱり話を聞くことは大切だと思います。

Eri： 北海道の独自事業として開始したメディカルウイングの運航開始が思い出深い仕事ですね。広域な北海道で遠方の医療機関での治療が必要になった患者さんを小型ジェット機で搬送する事業で、前任者から引き継いで議会への対応や就航式の準備など本庁ならではの仕事を経験しました。連続ドラマの「PICU」にもメディカルウイングが登場していたので、姪に「これは自分が関わった仕事だよ」と教えたこともありました。

森： 以前に個人病院の院長が急逝されて、病院の存続が危ぶまれるようなことがありました。法律上の権限はないけれど道として病院に対して何ができるかを保健所の中で検討して、入院患者さんをどうするかなどをシミュレーションしました。結果的に患者さんを転院させたりするようなことはありませんでしたが、法律上の話と現実として目の前の患者さんをどうするのかという観点で対応を議論したことがとても印象に残っています。

佐野： 保健所で実施している性感染症の検査の告知を担当しているのですが、産婦人科医時代に性感染症の患者さんへの対応を多く経験していたので、検査を受けに来る人が気兼ねなく話してくれるような雰囲気を作ることができています。以前から自分がやりたいと思っていた性教育に繋がっていると思っています。

大原： 新型コロナウイルス感染症の初期の頃に苫小牧保健所に勤務していて、医師会や感染症指定医療機関などの関係者と調整して地域の検査センターの立ち上げに関わりました。保健所として、できるだけ地域の関係者に負担にならないような方向で調整を行ったことが印象に残っています。平時から保健所と医師会や地域の医療機関との関係が良好だったことで仕事がやりやすいと感じました。

久保： 地域の保健所だと関係機関にすぐ行くことができるのが良いですね。臨床でしか経験できないこともあります。公衆衛生の世界にも臨床では経験できないことがあります。臨床医のままだったら考えなかったようなこともあり、別の視点を持つことができたのは良かったと思います。

Eri： 北海道は医師会との協力関係が良好だと感じています。道立保健所管内では医療資源が乏しい地域が多く、地域の医療関係者が考えている課題と保健医療政策の課題が近いことが背景にあること、先輩方が積み重ねてきた関係性のおかげだと思います。地域で勤務するとメジャーな観光地以外にも行くことができたり、各地と一緒に働いた仲間がいるので、旅行に行った際に案内してもらうことも楽しいですね。

大原： 新型コロナを経験して公衆衛生の存在感が10年前とは違ってきていると感じます。若い医師や見学に来た学生さんと話をすると公衆衛生の間口の広さや様々な視点に気づいてくれることがあります。札幌と旭川に大学があるので、私も公衆衛生大学院に通うことができました。自然が豊かで人材も揃っているので総合的に面白いと思います。地域勤務の時には美味しいものを食べたり、道の駅を回ったり、マラソン大会にも出場しました。

佐野： 保健所は突然発生する有事に対応するために研修や訓練を積み重ねていることが分かり始めるとその面白さを感じることができると思います。北海道の魅力は地域にあると思うので、様々な地域に行って異なる文化や自然、気候に加えて地域の医療や疾病構造などをメタ的な視点で見ることができると魅力だと思います。温泉が好きなので、地域の温泉に行けることも楽しみですね。

森： 社会の分断が進む中で、これからの時代に公衆衛生が大事になると思います。北海道は26保健所に千人くらいの職員がいて、組織としての経験の蓄積と色々な人材がいるので、学習の場としてとても適していると思います。県型の保健所は危機管理がメインなので、まずは危機管理の基本的なことを学んでそれから色々な専門的なことをお勧めしたいですね。地域の様々な観光地や温泉に行くこともできるので、北海道の自然や地域が好きなお人にも良いと思います。

山本： 北海道の保健所の業務範囲は全国的に見ても広めで、各保健所がある程度権限を持って地域の計画などを作成できるのは大きな特徴だと思います。規模が大きいので、本庁にも複数の医師がいて、保健所と本庁を行き来して幅広い経験を積んで行政医師として成長できるような環境が整っていることが北海道の良さだと思います。

人見： 北海道は行政医師の数が20人以上と多く、医師として勉強していく上でのモデルを持つことができます。困ったことがあればその分野を得意とする先生に相談することもできるので、人数規模が大きいのは懐が深いということはアピールしておきたいですね。

■アドバイザー



山本 長史
江別保健所長

人見 嘉哲
保健福祉部技監

よくある質問にお答えします

Q: 北海道で働く公衆衛生医師は何名いますか？

・2023年10月1日現在、保健所及び本庁等合わせて27名です。(札幌市、旭川市、函館市、小樽市の各保健所を除く)

Q: そのうち、女性の公衆衛生医師はいますか？

・2023年10月1日現在、女性医師は3名です。

Q: 業務内容はどのようなものですか？

- ・保健所では、地域における公衆衛生の第一線業務を担っております。具体的には、所管地域の感染症や食中毒等の健康危機管理、市町村への支援、保健・医療提供体制の調整などを行っています。
- ・本庁(北海道庁)では、北海道の各種施策の企画立案を担っています。具体的には、保健・医療・福祉に関わる条例の制定、計画の策定と進行管理、予算の確保、道議会対応、保健所業務の調整などを行っています。
- ・いずれにおいても、医師として幅広い医学的知識を背景に、地域の保健医療関係者等との調整や地域保健人材の育成などにスキルが求められます。

Q: 専門が公衆衛生ではありませんが、大丈夫でしょうか？

- ・臨床での経験は、公衆衛生の場面においても生かすことができます。
- ・業務に必要な知識については、採用後の業務経験や各種研修などを通じて習得することができます。
- ・社会医学系専門医の専攻医となり指導医の元で3年間研修し試験に合格することで専門医資格を取得できます。

Q: ワークライフバランスについて教えてください。

- ・勤務時間は概ね定時かつ規則的であり、ワークライフバランスのとれた生活が可能です。
- ・時間外の勤務は、土日や夜間に会議やイベント等を開催する必要がある場合や、感染症や災害などで緊急に対応を要する場合などにありますが、その場合は代休を取得できます。
- ・年次有給休暇(年20日)や夏期の休暇制度を活用して、計画的な休暇を取得できます。
- ・出産や育児、介護などに関する休暇制度もあります。

Q: もっと詳しく業務内容を聞きたいので、公衆衛生医師から直接話を聞いたり、見学することはできますか？

・保健所の見学も大歓迎です。道の公衆衛生医師による「WEB説明会」もご都合に合わせて実施しております。どのようなことでもお気軽にお問い合わせください。

採用情報

勤務場所	道内26ヶ所の道立保健所又は本庁(北海道庁)等
勤務条件等	給 与: 条例に基づき医療職給料表(一)により支給します。 扶養手当、通勤手当などの諸手当制度は関連する条例の規定により支給されます。 (例) 医歴5年: 約1,100万円程度、医歴10年: 約1,300万円程度(※諸手当を含む総支給額の目安) 勤務時間: 午前8時45分から午後5時30分まで(1日7時間45分、週38時間45分) 休 日: 土・日曜日、祝日及び年末年始(12月29日から1月3日) 但し、緊急時(災害、感染症・食中毒など健康危機事例発生時)は夜間・休日出勤の場合があります。 休 暇: 年次有給休暇(年間20日)、夏期(5日)・冬期(2日)休暇、慶弔休暇など 福利厚生: 住宅については公宅の貸与(有料)または住居手当の支給(民間賃貸住宅)等があります。 その他の福利厚生については道職員としての規定によります。
応募資格	応募資格は、日本国籍を有する医師としています。ただし、平成16年4月以降に医師免許を取得した方については、臨床研修を修了した者(見込みを含む)としています。
採用・選考方法	下記問い合わせ先で、随時、受け付けています。(詳しくはホームページをご覧ください) <input type="checkbox"/> 書類審査 <input type="checkbox"/> 面接試験

問い合わせ先

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 北海道保健福祉部総務課人事係
Tel 011-204-5243(直通)
e-mail hofuku.somu2@pref.hokkaido.lg.jp
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sum/hc-dr.htm>

北海道公衆衛生医師

検索



北海道内の保健所設置市の医師の募集

北海道の中核市・政令市などでも医師を募集している場合があります。詳細は下記にお問い合わせください。

札幌市	〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目	札幌市保健所健康企画課
	Tel 011-622-5151	e-mail kansensyo@city.sapporo.jp
旭川市	〒070-8525 旭川市7条通10丁目第二庁舎	旭川市保健所保健総務課
	Tel 0166-25-6354	e-mail hokensoumu@city.asahikawa.hokkaido.jp
函館市	市立函館保健所地域保健課	Tel 0138-32-1512
小樽市	小樽市保健所総務課	Tel 0134-22-3117